

質 問 回 答

2023 年 10 月 6 日

「フィジー国大洋州地域気象防災中核拠点の整備に係る情報収集・確認調査（一般競争入札（総合評価落札方式-ランプサム型）」

（公示日：2023 年 9 月 27 日／調達管理番号：23a00637）について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	第三国調査スケジュール	<p>第三国調査として、JICA 出張者と共にメルボルンへ行くことになっており、事前説明会での資料ではそのスケジュールが 11/21~11/22 頃と記載がありました。一方、入札説明書(P.16)では、11/20 の週は技協プロジェクトと合同調査を行うとあります。技協との合同調査の一環としてメルボルンに行くという理解でよろしいでしょうか。調査スケジュールを作成するにあたり、メルボルンへの第三国調査の日程を再度お知らせ頂きますでしょうか。</p> <p>また、サモア国への第三国調査も想定されている日程がありましたら教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none">・入札説明書に記載の通り、11/20 の週は、JICA の新規技術協カプロジェクトの詳細計画策定調査と合同でフィジー気象局など関係機関との協議や現場視察を行う予定であり、同調査に参团する JICA 出張者と共にメルボルンにあるオーストラリア気象局の測器校正センターの視察などを行うことを計画しています。メルボルンへの渡航日程は現在調整中(11/21~11/22 頃)です。・上記の技プロ詳細計画策定調査は、11/13 の週からの協議・視察により技プロの協力内容に関する検討を進める予定であるため、11/20 の週は無償の協カニーズに関する協議を中心としつつ、無償のニーズを踏まえて技プロの詳細計画策定調査の討議議事録（Minutes of Meeting）の最終化及び署名を行う予定です。・サモア国への第三国調査は、11/27 の週以降～12 月中旬までを想定しており、本情報収集・確認調査の調査団員の調査計画を踏まえて検討いただき、アポイントメントの取り付けに関して JICA 本部からサモア支所の支援などの調整を

			行う予定です。
2	フローチャート	プロポーザル作成ガイドライン(P.4)では、「業務実施の方法」として「フローチャート」の記載が求められていますが、本案件の入札説明書(P.29)ではプロポーザルの構成に「業務実施の方法」が含まれておりません。今回は「フローチャート」の記載は不要、という理解でよろしいでしょうか。	プロポーザル作成ガイドライン(P.4)における「業務実施の方法」のとおり、「フローチャート」を記載ください。
3	バックアップ体制	入札説明書(P.29)によれば、当該業務実施上のバックアップ体制は「本邦」のみに丸が付いています。もし「現地」のバックアップ体制を記載したとしても評価はされないのでしょうか。	バックアップ体制について、本邦に入っている囲みを削除します。本邦・現地のいずれのバックアップ体制も記載ください。いずれも評価対象とします。
4	要員計画	入札説明書(P.29)によれば、「要員計画」の項目がありませんので、通常記載していた「要員計画」の内容は今回は記載不要という理解でよろしいでしょうか。(様式 4-3「要員計画」が不要というのは承知しております)	入札説明書(P.34)の「3)作業計画」に沿って、記載ください。
5	分担業務内容	入札説明書(P.29)によれば、「業務従事予定者毎の分担業務内容」の項目がありませんが、一方で、(P.34)には様式 4-4「業務従事予定者毎の分担業務内容」は記載が必要とあります。様式 4-4 はどの項目に含んでページ数をカウントすればよいでしょうか。	入札説明書(P.34)の「3)作業計画」に沿って、様式 4-4「業務従事予定者毎の分担業務内容」は記載ください。

6	第2期契約に対する提案	入札説明書(P.18～)には追加業務(第2期契約)の内容について記載がありますが、今回のプロポーザルでは第2期契約に対する提案も行う必要がありますでしょうか。あるいは、第1期契約の「情報収集・確認調査」に対する提案のみと理解して差支えないでしょうか。	技術提案書においては、業務が追加された場合の基本方針、基本的な留意点等を記載ください。追加業務の詳細内容は、第1期の調査結果によるため、「第2期」の具体的な作業計画や要員配置の詳細については、「第2期」の追加発注時に発注者と受注者が協議します。
7	機材調査	入札説明書(P.19)の追加業務(第2期契約)の記載や、要請書には、機材に関する記載があります。一方で、機材担当の団員は設定されていませんが、機材調査や機材仕様書の作成はどの担当が行う想定でしょうか。機材担当者を設定されていない理由がございましたらご教授ください。 また、第1期契約の情報収集・確認調査では、機材に関する調査は不要と理解してよろしいでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期契約の情報収集・確認調査では、施設付帯機材に係る調達計画(調達事情調査)のみを予定しています。 ・第2期契約では、施設付帯機材の他に機材調達を行うニーズがある場合には、機材担当の設置の可否を検討しますが、既往の機材の増強など機材そのものの計画立案・検討が必要となる機材は想定していません。
8	技術提案書にて具体的な提案を求める事項	入札説明書(P.28)で、「レイアウトの提案(複数のオプションを提示)」とありますが、レイアウトを作成するにあたっては施設の使用人数の情報が必須となります。職員数が1.5倍になったとの記載はございましたが、具体的な施設の使用人数の情報がございましたら共有いただけますでしょうか。	・フィジー気象局の職員数は、90年代に現在の庁舎を無償資金協力で建設した際には90名弱でしたが、現在は150名程度の規模に増加しています。
9	35ページ 4.経費積算に係る留意事項 (2)別提案書	追加業務に係る別提案書の提出が要求されています。別提案書の記載要領(記載事項、ページ数の制限など)についてご教示願います。	通番号6と同様です。ページ数の制限等はございません。

10	同上	追加業務に係る別提案書の内容はプロポーザル評価の対象外と考えてよろしいでしょうか。	通番号6のとおり、提案内容が限定的であるため評価の対象外となります。
11	P.14 第4条(3) P.16 第5条(2)	11月20日は別の詳細計画策定調査の団員と合同で実施する予定とのことですので、サモア国への第三国調査については、11月27日の週以降の間で、受注者が調査効率上最も適すると判断するタイミングでの実施という理解でよろしいでしょうか。 貴機構が想定する第三国調査期間がありましたら、ご教示ください。	メルボルンへの第三国調査の渡航日程は現在調整中(11/21~11/22頃)で、詳細計画策定調査に参加するJICA出張者に、本業務の団員が同行する形式(現地1営業日)を予定しています。 サモアへの第三国調査は、詳細計画策定調査の従事者が参加することは想定しておらず、受注者の調査効率上最も適するタイミングで実施し、渡航日数についても受注者の計画に基づき実施する方針ですが、2営業日程度を想定しています。
12	P.16 第5条(2)	第1期の調査時において、貴機構フィジー事務所及び大使館への表敬訪問の必要性について、貴機構のご想定をご教示いただけますでしょうか。	11月24日(金)はスバでの活動として、JICAフィジー事務所及び大使館への表敬訪問及び南太平洋大学への訪問を想定していますが、本業務従事者の同席は代表者のみ(全員出席不要)を考えており、調査日数が限られているため他機関への調査日程が入った場合にはJICA団員のみで対応することも検討します。
13	P.28 第5条/(2)/3)及び注釈6	建設予定サイトにおいて、自然条件調査(地形測量、地質調査、地盤調査、水道、下水、電力等の周辺インフラの状況調査等)を行う5。」、「サイト状況(自然条件、インフラ状況等)調査は、現地再委託にて実施することを認める。」と記載ありますが、現地調査(2023年11月中旬~12月中旬)時、自然条件調査(地形測量、地質	現地再委託調査の現地作業期間や報告書作成が、現地の休暇時期や年末年始と重なるため、提案のとおり、サイト調査の記録等の簡易報告書を第1期で提出し、最終成果品の提出は第2期と提案することも認めます。 上記の対応とする場合は、技術提案書にてご提案ください。なお、第2期契約を実施しない

		調査、地盤調査)を現地再委託でサイト調査を開始できても、年末年始休暇により、室内1土質試験や作図、報告書作成に時間も要するため、第1期契約履行期間(2024年1月まで)内に現地再委託成果品の提出は困難なスケジュールと思われます。サイト調査の記録等の簡易報告書を第1期で提出し、最終成果品の提出は第2期と提案することは可能でしょうか？	こととなった場合には、最終成果品の提出期限について交渉の上、第1期契約を延長する等により、最終成果品に現地再委託成果品を提出することを前提とします。
14	P.28 第2章 別紙2 No.2 特記仕様書への該当条項	「第2章 特記仕様書案 第5条 調査の内容(2)現地調査 3)建設仕様・設計の確認及び建設計画の策定」と記載ありますが、「3)建設仕様・設計の確認及び建設計画の策定」は、記載誤りで、正しくは「3)サイト状況(自然条件、インフラ状況等)調査」の理解で宜しいでしょうか？	ご指摘のとおり、「3)建設仕様・設計の確認及び建設計画の策定」は、記載誤りで、正しくは「3)サイト状況(自然条件、インフラ状況等)調査」に訂正いたします。
15	P.29 頁 第3章 1 表中1、 P.38 頁 別紙3 表中1(2)	「(2)当該業務実施上のバックアップ体制(本邦／現地)」の記載で「本邦」のみ囲みがあります。一方で、現地支援体制や社外有識者の支援など、、、と記載があります。29頁の頁数上限のとおり、1～2頁以内で現地支援体制も記載するという理解で宜しいでしょうか？	通番号3のとおりです。
16	P.35 4. 経費精算に係る留意事項	予定価格・見積積算のためフィジー国へ渡航につきまして、貴機構が想定する経路・航空会社・見積取得時期・航空券有効期限・予約期限・予約変更可否・払い戻し可否をご教示ください。	JICAの標準渡航経路は以下のとおりです。 東京⇄シドニー／メルボルン⇄フィジー(ナンディ・スバ) 予約期限・予約変更可否・取消・払い戻しに関

			<p>わる実費などについては航空会社ごとに条件が異なりますので、現時点での明記は困難です。効率的かつ経済的な経路・航空会社をご選択のうえ、3 ヶ月有効の PEX 運賃にて積算ください。</p>
17	P.35 4. 経費精算に係る留意事項	<p>予定価格・見積積算のため想定される一般業務費の費目をご教示ください。</p>	<p>定額計上にあげる費目に加え、各現地調査地での車両費、国内航空賃、通信費、印刷費等を想定しております。</p>
18	P.35 4. 経費精算に係る留意事項	<p>予定価格・見積積算のためフィジー国内の移動について、陸路・空路の手段について、貴機構が想定する移動手段についてご教示ください。</p>	<p>空路を想定しておりますが、経済的・効率的な経路があれば技術提案書にてご提案ください。</p>

以上